

公益財団法人さんりく基金
令和元年度第2回評議員会 議事録

1 開催の日時及び場所

- (1) 日時 令和2年2月6日(木) 午後1時10分から午後1時50分
- (2) 場所 岩手県盛岡市内丸11番2号 岩手県公会堂 特別室

2 評議員の現在数 評議員7名

3 出席者

- (1) 評議員 窪田 優一 評議員 佐藤 廣昭
 評議員 澤里 充男 評議員 白水 伸英
 評議員 高 泰久

(2) 役員

業務執行理事 小野寺 宏和 業務執行理事 平井 省三

(3) 事務局

事務局長 小野寺 宏和 事務局次長 畠山 剛
三陸DMOセンター長 平井 省三 総務管理部長 大釜 範之
企画事業部長 高橋 則仁 DMO事業部副部長 三上 克好
総務管理部副部長 小川 信子 事務局員 田村 優子
事務局員 川村 泉

4 欠席者

評議員 橋本 良隆 評議員 藤代 博之

5 議長

高 泰久

6 決議事項

第1号議案 令和2年度事業計画及び収支予算の承認について

7 議事の経過

午後1時10分開会した。

小野寺業務執行理事が、評議員現在数7名中、本人出席5名により、定款第20条に定める定足数を満たしており、本評議員会は成立した旨を告げた。

また、昨年6月の評議員改選後初めての評議員会となるため、今期の議長及び副議長を選出することとし、議長に橋本評議員、副議長に高評議員が選出された。なお、議長に選出された橋本評議員は本日欠席しているため、副議長の高評議員が本日の議長として議事進行を進めることとなった。以降の進行は、高議長により進められた。

なお、議事録署名人について、議長一任とされたので、議長は佐藤評議員と白水評議員の2名を指名した。

報告 「職務執行の状況について」

小野寺業務執行理事及び平井業務執行理事が執行状況を報告した。
議長が、報告について質問、意見を求めた。

【白水評議員】

県北沿岸地域新商品・新サービス開発事業は地場産業の活性化につながるもので非常にいい事業だと思っている。2次募集したということだったが、申請状況はいかがか。

金額は50万円が上限となっているが、金額も含め、来期に向けた課題があれば教えてほしい。

【大釜総務管理部長】

1次と2次の2回に分けて申請を受け付けている。1次募集では申請34件のうち採択31件、2次募集では申請33件のうち採択26件と、85%程度の採択実績となっている。

内容の審査等を踏まえて、予算の範囲内でなるべく多く採択している。個々の採択状況をみてみると、上限まで目一杯申請する方や課題になっている部分のみ少額で申請する方など様々である。

助成金額50万円については、新商品開発に主に使用いただく経費であり、これを使わせていただいて、次の販路拡大や商品の充実につなげていただくという趣旨であるので、当面は50万円ですすすめていきたい。

その他発言はなく、議案の審議に入った。

第1号議案「令和2年度事業計画及び収支予算の承認について」

議長は、第1号議案について事務局に説明を求め、畠山事務局次長が説明した。
議長が、第1号議案について質問、意見を求めた。

【白水評議員】

県北沿岸地域新商品・新サービス開発事業について、今年度は57件の採択があったが、来年度計画は30件となっている。今年度は三プロがあったので予算額や件数が増えたのかと思うが、来年度はこの計画で十分という考えか。募集を2回に分けるのか、考え方を教えてほしい。

また、イベント開催事業について、来年度の三プロ実施にあたって今年度から引き続き行うイベントや新たに行うイベントは対象になるのか。

【大釜総務管理部長】

新商品・新サービス開発事業について、今年度は三プロに向けたお土産品開発や機運醸成として、支援強化したところであるが、来年度は、事業実施者へのフォローを強化するというので、30件程度の事業計画としている。必要な方に必要な商品開発が進められるように伴走型支援を進めていきたい。募集の進め方は、今年度と同様に1次、2次と段階を分けて募集を行い、それぞれのタイミングに合わせた採択となるように配慮していく。

イベント開催事業は、要件として、三陸地域の新たな交流人口の拡大などを十分視野に入れたイベントへの助成を考えている。事業の目的に資するイベントに注力して、審査、採択を行っていく。

【高評議員】

重点事項の中で、「三陸防災復興プロジェクトに参画する事業の重点支援」とあるが、来年度も三陸防災復興プロジェクトというのが継続して行われるのか。

【小野寺業務執行理事】

昨日、三陸防災復興プロジェクト 2019 実行委員会の総会が行われ、来年度も引き続きプロジェクトを継続するという決議をとった。

プロジェクトも含めて、三陸地域をどう振興していくかについて、三陸振興協議会を設立し、その中で話し合っていこうと考えている。三陸防災復興プロジェクト 2019 の精神を引き継ぎつつ、産業振興、人材育成と範囲を少し広げ、そういったことを協議会の中で話し合っていきたい。

県としても事業を行いながら、市町村や各地域でもいいコンテンツを作ってもらい、みんなで一体となって進めていければと考えている。

【澤里評議員】

三陸振興協議会を設立するという事だが、プロジェクトの実行主体は協議会ということか。それとも実行主体は市町村となるのか。

【小野寺業務執行理事】

三陸振興協議会はいわゆる推進エンジンのような形で統括する。協議会の中で今後の三陸振興をどうするか、プロジェクトをどう進めるのかという議論を皆さんでしていく。県としてはこういうことをやる、市町村や各地域としてはこういうことをやるなど、皆さんが主体性を持ちながら事業を進めていくということを協議会の中で話し合っていければいい。

【澤里評議員】

主体はあくまでも市町村が企画を立てて、それを協議会がフォローするという事か。

【小野寺業務執行理事】

協議会で議論することで、さんりく基金の財源を使えないかや市町村が取り組むものについては地域経営推進費を充ててはどうかなど、様々な議論ができるだろう。個々に進めるというよりも一体となって話し合う効果が出てくると思われる。

【白水評議員】

釜石市では、ラグビー関係についてレガシーなど色々考えられているかと思うが、支障ない程度で、来年度の取組について情報提供をお願いしたい。

【窪田評議員】

カナダ対ナミビア戦の一周年イベントについて検討を進めている段階である。それ以外には、東京オリンピック・パラリンピック競技大会を絡めて、復興ありがとうホストタウンであるオーストラリアとは、釜石シーウェイブスにいた選手がのちにオーストラ

リア代表選手になったというご縁もあることから、パブリックビューイングなどホストタウン事業とラグビーを絡めながら、いくつか展開していきたい。

また、釜石鶴住居復興スタジアムの利活用について、次年度は、試験的に考える期間として直営で運営しながら、令和3年度に向けてどういう体制にするかという検討をすすめる。現在、東京のフューチャーセッションズという会社に社会貢献という形で釜石に携わっていただいております、スタジアムの活用について、黒字化に向けてどうすればいいか、ラグビー、非ラグビー含め興行をどのようにすればいいか検討を行っているところ。

【高評議員】

昨日の三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会総会で、残余財産をさんりく基金に返還するという話があった。決算時に説明するのもかもしれないが、どういう流れになるのか。

【小野寺】

決算に関わる内容であり、正式には6月の決算審議でお諮りするが、事前にご報告する。

昨年3月、三陸防災復興プロジェクト2019を支援するという事で、基金の自主財源8,500万円を取り崩して実行委員会へ負担金拠出したところ。

三プロ側で運営経費の節減に努め、寄付金をいただいたこともあり、約2,800万円の残余財産が生じる見込となっている。昨日の三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会総会において、今後の三陸振興に活用してほしいということで、さんりく基金に残余財産を返還する旨が決定された。

また、三プロ終了後、沿岸の全首長から、プロジェクトを継続してほしいとの声があり、引き続き、県も事業を行いながら、市町村、関係団体も主体的にプロジェクトを実施していく方向で考えている。

については、三プロの継続、今後の三陸の総合振興を考えた場合にさんりく基金の役割は重要と考え、県としても約5,700万円を拠出の意向である。

よって残余財産2,800万円とあわせて、さんりく基金で取り崩した8,500万円を回復させる方向となっている。さんりく基金を通して、地域で活躍している団体等を支援することで、三陸地域の総合振興を実現していきたい。

議長が、他に質問、意見を求めたが、特に発言はなく、第1号議案の賛否を諮ったところ、全員異議なくこれを承認した。

議案質疑が終了し、議長がその他質問、意見を求めたが、特に発言はなく終了した。

以上をもって議事の全部の審議及び報告等を終了したので、議長は午後1時50分閉会を宣言した。